

平成30年度

学校自己評価報告書

令和元年8月

学校法人日本コンピュータ学園

東北保健医療専門学校

■平成30年度 学校自己評価について

学校法人日本コンピュータ学園 東北保健医療専門学校は、東北における介護・医療・福祉の専門職を養成する教育機関として、平成23年に開校し、病院・施設・地域との連携を強化し、職業実践的な教育により、業界の最前線で活躍できる医療福祉従事者の育成を目指しております。

本校では、開校以来独自の評価項目に基づき、学校自己評価に取り組んでおります。さらに、平成24年度からは、より良い自己評価を目指して、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考として評価項目の改良、拡充を行い、現状・課題の把握ならびに改善策の検討・実施を行っております。また、評価にあたっては、教員の自己評価、学生アンケートなども踏まえて行っております。今後は、この学校自己評価の結果を生かし、更なる「教育の質の向上」を図ってまいります。

1、対象期間

平成30年4月1日～平成31年3月31日

2、実施方法

- (1) 学内に「学校自己評価委員会」を設置し、委員会を中心に教職員一同により評価を行っております。

委員会構成：委員長 校長

委員 法人事務局部長、就職センター室長、進学相談室室長
教務部長、教務課長、総務課長代理

- (2) 評価は「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に行っています。
- (3) 評価は、年一回行います。
- (4) 評価結果の公開は、本報告書をホームページに掲載することにより行います。

3、自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目を実施します。

- (1) 教育理念・目的
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4、評価項目に対する評価

評価は、4～1の点数で記載します。

評価 4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

■基準1 教育理念・目的

教育理念

1. 基本的資質の修養
品性を磨き、自己の人格形成に努めること
2. 知識と技術の体得
理解を伴った正確な技術の訓練を継続すること
3. 調和のとれた心の鍛錬
心の平静を保ち、前向きな姿勢で取り組めること

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	理念・目的・育成人材像は定められているか	④ 3 2 1
b	学校における職業教育の特色を示しているか	④ 3 2 1
c	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
d	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
e	各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

(2) 状況および課題と改善策

- a. 理念・目的・育成人材像は明確に定め、学生便覧・学修要項(運営方針・教育計画)・入学案内・ホームページで明示している。
- b. 職業実践専門課程における教育課程編成委員会や学科ごとに、業界の現状を見定めながら、カリキュラム内容を検討している。また、各学科の職業教育の特色は、入学案内書・ホームページ・体験入学会・オープンキャンパスで広く周知し、明確にしている。
- c. 医療・福祉・保健業界や教育行政の動向を捉え、将来構想を構築していく。少子高齢化や労働力減少を見据え留学生受け入れ準備を整えており、来年度は介護福祉科に初めての留学生受け入れを予定している。
- d. 教育理念や育成人材像については、体験入学会やオープンキャンパス、入学時オリエンテーションで学生便覧や学修要項を用いて、学生・保護者に周知している。また、将来構想や学校自己評価・学校関係者評価などから得た課題を踏まえ、学校として3つのポリシー(「入学者受入の方針」(アドミッション・ポリシー)、「教育課程編成の方針」(カリキュラム・ポリシー)、「卒業認定の方針」(ディプロマ・ポリシー)の策定・公表を予定している。

- e. 各学科の教育目標と育成人材像は各学科で検討を行い、目的意識を統一している。
また、昨年度の学校評価において、「組織・チームの一員としてあるべき方向性」「管理の知識」「多職種連携に必要なコミュニケーション能力の習得」が必要であることを認識し、今後各学科で検討していく。

■基準2 学校運営

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)			
a	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
b	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
c	運営組織や意思決定機能は、明確化され、有効に機能しているか	4	③	2	1
d	人事、給与に関する制度は整備されているか	4	③	2	1
e	各部門の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
f	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
g	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
h	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

(2) 状況および課題と改善策

- a. 学則の目的・基本方針及び職業実践専門課程の目的に基づき、学校運営方針を定めている。
- b. 平成31年度事業計画に基づき、平成31年度運営方針を策定している。また、平成30年度末の理事会で承認された学則変更において、令和2年度より理学療法科は総定員210名から240名に増員、医療秘書科・医療情報管理科は各々総定員80名から60名に減員とした。
- c. 運営組織や意思決定機能は明確化されている。組織内部における決定事項や検討事項など教職員への適確な情報共有は今後も徹底するとともに、内規を整備する。
- d. 人事、給与の制度は整備されている。今年度は、就業規則の定年規定・退職金規程の改定を行い、再雇用等の制度を見直し整備することができた。
- e. 各学科で科内会議を行い、意思決定している。教員の役割・業務量が多いこともあり、調整が困難ではあるが、意思決定システムとして科内会議を定例化できるよう教務の明確化・適正化を図っていく。
- f. 学校法人及び学校に必要な規定は整備され、官公庁及び関係団体との文書の収受等対外的なコンプライアンスは維持され、適切に対応している。

- g. 入学案内や学校ホームページ・ブログ、教育課程編成委員会などで情報公開は適切になされている。
- h. 基幹業務システムはサーバの入れ替え、データベース管理ソフトのバージョンアップを実施した。デスクネット（グループウェア）やメールサーバ等の活用、また、昨年度は学籍異動ガイドラインを作成し、業務の流れ、文書作成が明確となったことで業務効率化を図ることができた。今年度は、姉妹校である東北電子専門学校の仕様を取り入れ、出席管理・成績管理システムの導入を予定している。

■基準3 教育活動

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されている	④ 3 2 1
b	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
c	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
d	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
e	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
f	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4 ③ 2 1
g	企業や専門家の意見、評価を受け、より実践的な能力を修得する機会が整備されているか	④ 3 2 1
h	授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
i	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4 ③ 2 1
j	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
k	必要な場合は業界と連携して、人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
l	関連分野における先端的な知識・技能等の修得や指導力の育成など、教員の資質向上のために研修等の取組が行われているか	4 ③ 2 1

m	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1
---	------------------------	---	---	---	---

(2) 状況および課題と改善策

- a. 教育課程は指定規則に則り策定している。各学科の実施方針は、学生便覧で教育目標として明記している。
- b. 教育課程編成委員会の意見を参考に、教育到達レベルや学習時間の確保について十分に検討・改善することで、明確になっている。また、実際の取り組みとしては学生の学修状況や到達レベルに応じて、繰り返し演習指導を行っている。
- c. 現在の指定規則に則り、カリキュラムは体系的に編成され、適切に実施している。理学療法科・作業療法科は、指定規則改訂が令和2年度に施行されるため、カリキュラムの変更・整備を進めている。
- d. 各教員が実践的な職業教育の視点に立った教育方法の工夫を行っている。実技科目は、複数教員が同時に授業に参加し、きめ細かな指導ができる体制を取っている。また、臨床で働いている有資格者を迎え、より実践的な職業教育の視点で授業を実施している。
- e. 教育課程編成委員会を年2回実施し、委員より意見をいただき、カリキュラムや授業内容の見直し・変更をしている。特に理学療法科・作業療法科は、令和2年度より施行する新カリキュラムの検討を行っている。新設して2年目の歯科衛生科は、教育課程編成委員会を立ち上げ、来年度、職業実践専門課程の申請を予定している。
- f. 関連分野において、学外の見学実習、臨地・臨床実習は体系的に位置づけられ、実施している。
- g. 教育課程編成委員会を年2回実施し、実習指導者や事業所責任者の意見を実習内容に反映している。
- h. 学生が教員を評価する授業評価アンケートを実施している。今後、その在り方を検討していく。
- i. 高等教育の修学支援新制度における機関要件として「厳格かつ適正な成績管理の実施」が必要であり、「授業設計（シラバス）と成績評価のガイドライン」を作成・整備している。
- j. 各学科で、資格取得のための対策を講じ実践している。国家試験対象学科は、国家試験対策の特別講義を1年次から行っている。また、医療秘書科・医療情報管理科は資格取得についてカリキュラムマップに明示し、キャリアアップに向けた取り組みを分かりやすくした。
- k. 必要に応じて、各分野の専門家を講師として迎え、実践的な技術や知識を教員に伝達している。
- l. 学内研修会や各教員が自主的に各分野の先端的な知識・技能修得のため研修会や学会等に参加している。今後さらに促進していきたい。

- m. 指導力向上のための教員研修会を年3回実施している。学生を教育するにあたって、どのような能力を修得することが必要か見定め、各教員からの意見も聴取しながら、研修計画を立案・実施していく。

■基準4 学修成果

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
b	資格取得率の向上が図られているか	4 ③ 2 1
c	退学率の低減が図られているか	4 ③ 2 1
d	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④ 3 2 1
e	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1

(2) 状況および課題と改善策

- a. 学校全体として平成30年度の就職率は90%だった。担任と就職センター担当者が連携し、早期意識づけや就職指導など、きめ細かい支援を行ったため良い結果が出ている。
- b. 介護福祉科は平成30年度国家試験で100%の合格率を達成することができた。医療秘書科・医療情報管理科は資格取得への意欲の高い学生が多かったことで、学生の資格取得率が向上した。理学療法科・作業療法科は国家試験合格率の向上のため引き続き対策を強化していく。
- c. 入学直後から学生面談を実施し、学生の状況に合わせ面談を継続するとともに、学習面の支援も行った。また父兄との面談も重ね情報交換を行い、連携して対応してきたが、今年度は退学率を低減することはできなかった。
次年度は、入学後の学生としての姿勢を早期からイメージできるように、入学前の課題学習の導入を検討し、実施する予定である。
- d. 卒業生にアンケート調査を実施し、現状のキャリア形成について把握することができた。介護福祉科では、一般公開の実習事例報告会において、在校生が発表するなど、その他卒業生の学会、研修会での発表も毎年多数の報告を受けている。
- e. 卒業生に対するキャリア形成のアンケートを実施したことで、課題として掲げている「組織、チームの一員としてあるべき方向性を明らかにする必要性」、「管理の知識」、「多職種連携に必要なコミュニケーション能力の習得」が必要であることが明確になり、今後教育活動の改善につなげていきたい。

■基準5 学生支援

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
b	学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
c	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
d	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④ 3 2 1
e	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
f	学生の生活環境への支援は行われているか	④ 3 2 1
g	保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
h	卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
i	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④ 3 2 1
j	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1

(2) 状況および課題と改善策

- a. 就職センターの専任職員から学生対応の内容について定期的な報告を受けることにより、学生の進捗状況が明確になり、担任との連携が促進された。
- b. 担任が主体になり、学生サポート室と相談員・看護師・カウンセラーが連携して、各種相談に応じている。担任への相談件数が増えているため、学生が相談しやすい場所の提供や担当者の整備が必要である。
- c. 奨学金の対応の他、各自治体の修学資金等の案内は、担任と総務職員が連携して、採用後及び卒業時点の事務処理等を適切に行っている。また、高等教育の修学支援新制度の申請や体制整備は適確に行っている。
- d. 健康管理委員会を設置し、保健室と感染症に関する情報共有など密に行っている。また、学生の現状を把握するためにシートを作成することで、組織的に活動することができた。感染症対策においては、消毒薬を改善するなど、各フロアに2か所設置し、学生の手指消毒を促進するとともに、流行性感染症の蔓延化を防ぐことができた。
- e. 課外活動は、スポーツ大会、希望者によるボランティア活動など必要に応じて支援を行っている。
- f. 校内には、学生食堂や売店、地下駐輪場など施設・設備は整っており、学校生活の利便性を高めている。また、生活上の支援については、学生便覧に規則を定め、学校として適切に対応している。学生寮では、学生寮担当者と連携して生活上の課題を解決できるよう適宜対応している。

- g. 欠席や体調不良の際は保護者に連絡し、必要に応じて、学生面談を行い、医療機関の受診を促している。原因が学修面であるときは、その支援を行い、家庭での支援や協力もお願いしている。
- h. 昨年度は同窓会幹事会主催の研修会（年3回）開催を支援するなど、定期的かつ活発に活動することができた。今後も卒業生の支援内容については検討が必要だが、個々の卒業生からの転職等の相談に担任や就職センターが随時対応している。
- i. 社会・業界で必要とされる教育環境は整備している。学生全員に iPad を配付し、校内全域には無線 LAN 環境を整えている。また、コンピュータールームや診察室・受付カウンター、薬剤収納棚などを兼ね備えた医療事務実習室を設けることで、実践の場面を想定した教育環境を実現している。
- j. 介護福祉科の高校訪問ガイダンスや介護従事者確保対策事業で高校訪問を実施し、学生および進路指導部教諭への説明を行っている。また、宮城県専修学校各種学校連合会主催で、高校生対象に未来のお仕事体験を実施した。

■基準6 教育環境

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4 (3) 2 1
b	学内外の実習施設、インターシップについて十分な教育体制を整備しているか	4 (3) 2 1
c	学生が自主的に学習するための環境が整備されているか	(4) 3 2 1
d	防災、防犯に対する安全管理体制は整備されているか	(4) 3 2 1

(2) 状況および課題と改善策

- a. 指定規則上の設備、備品は整備されている。来年度は、歯科衛生科（3年制）が設置3年目を迎え、全学科全学年が設備を利用することを考慮すると、経年劣化に伴うメンテナンスをしていくとともに、指定規則改訂に伴う設備備品の整備も同時に進めていく。
- b. 関連分野において、学外の見学実習、臨地・臨床実習が体系的に位置づけられ、実施できているが、引き続き各学科において協力施設の確保は必要であり、急務である。また、理学療法科・作業療法科・介護福祉科は指定規則改訂に合わせた教育体制を整備していく。医療秘書科・医療情報管理科は、医療現場でインターンシップ実習を実現できるよう段階的に取り組みを推進していく。

- c. 各学科等に教室を割り当てたことで学生は校内で自主的に学習するための場所を確保できている。昨年度は、ライセンスサポートセンター（資格取得のため自習室）を開設したことにより、国家試験や資格取得に向けた学習に集中できる環境をさらに充実させることができた。
- d. 対策を講じながら地震訓練・火災訓練を定期的に行っている。盗難・防犯に対する安全管理体制は再度整備するとともに今後も認識を深めていく必要がある。

■基準7 学生の受け入れ募集

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)			
a	学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
b	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
c	学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

(2) 状況および課題と改善策

- a. 学生の募集広報活動における内容や説明については、実績を基に適切な判断材料を提供するよう配慮し、真実性、透明性をもった情報提供及び募集活動を行っている。全学科におけるAO入学制度の導入や入学選考方法の見直しを行ったことで、入学者の成績分析等を行い、指定校推薦入学は高校評定平均値が3.2以上、推薦入学は3.0以上に設定するなど適宜関係部門と検討・連携することで適切な募集活動を行っている。
- b. 教育内容や成果を「入学案内」や「ホームページ」、「学校見学」などで詳細に説明、公開している。また、教育実績、就職状況、資格取得状況について、教員と進学相談室（広報事業部）が情報を共有し、入学希望者に積極的に情報を提供している。さらに教員同行にて高等学校を訪問し、高校教員への的確な情報提供も行っている。
- c. 学納金は、教育内容や教育環境、他校の学費水準に照らし、妥当な額を理事会において決定している。学費以外に必要な経費の他、卒業までに必要な経費全てについて募集要項に記載し、透明性のある情報提供を行っている。

■基準8 財務

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)			
a	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1

b	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2	1
c	財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
d	財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

(2) 状況および課題と改善策

- a. 学園の財務基盤は安定している。
- b. 予算の編成及び執行は適正に実施している。
- c. 会計監査は、関連法規により公認会計士及び監事により適正に行われている。
- d. 財務情報については、ホームページに「資金収支計算書」「事業活動収支計算書」「貸借対照表」「事業報告書」「財産目録」「監査報告書」を公開している。

■基準9 法令等の遵守

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)			
a	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
b	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
c	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
d	自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

(2) 状況および課題と改善策

- a. 各種法令・施設設置基準を遵守し、不明な点は適宜監督官庁に問い合わせ、確認を取っており、適正に学校運営がなされている。
- b. 規定に基づき、個人情報に関する誓約書や同意書を取り扱い、学生および職員に適切に実施している。臨床実習における学生の個人情報開示に関しては、学生に十分に説明したうえで、説明した点に関する同意をとる必要があり、当校で知り得た個人情報の利用についても、利用目的や使用期間を定め適正に管理し、データ廃棄についても適正に実施している。
- c. 学校自己評価を実施し、問題点の改善に努めている。さらに、自己評価の体制を整備し、重要項目の優先順位や役割分担、時期などを明確に決定し、実現に向けて取り組んでいる。
- d. 自己評価結果は適時、公開している。さらに、自己評価の進め方を明確にし体制を強化していく。

■基準10 社会貢献・地域貢献

(1) 評価

評価項目		評価 (4~1)
a	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
b	生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
c	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	④ 3 2 1

(2) 状況および課題と改善策

- a. 隣接の仙台市シルバーセンターとの積極的な交流、宮城県の委託事業である介護従事者確保対策事業を通じて介護の仕事の魅力を伝達するイベントを開催するなど、積極的に社会貢献・地域貢献を行っている。
- b. 現状の教職員業務体制、学生の学修状況を考慮したうえで、ボランティアの奨励、支援を教員が行っている。
- c. 介護福祉科は、宮城県の委託事業として、離職者等再就職訓練（介護福祉養成業務2年コース）を受託している。また、介護人材確保事業として、小中学校向け介護の魅力普及事業、養成施設入学促進事業、地域での介護の魅力普及事業を積極的に実施している。

以上

学校法人日本コンピュータ学園 東北保健医療専門学校

〒980-0013 宮城県仙台市青葉区花京院 1 丁目 3 番 1 号
